

水源環境保全・再生に係るモニタリング・情報提供 一覧表

1 水環境モニタリング調査

「順応的管理」の考え方にに基づき、事業実施と並行して、水環境全般にわたるモニタリング調査を実施し、事業の効果と影響を把握しながら評価と見直しを行うことで、柔軟な施策の推進を図るとともに、施策の効果を県民に分かりやすく示す。

	調査内容	データ項目(事業情報)	モニタリング調査項目	モニタリングのスケジュール	既存・過去の関連調査
(1) 森林のモニタリング調査	(1) 森林のモニタリング調査 対照流域法による森林の水源かん養機能調査 水源の森林エリア内の4地域において、調査に必要な量水堰堤や気象観測装置を設置し、水量や水質、動植物相、土壌、土砂流出量などの変化を調査し、長期的な時系列データを収集する。	年度・実施箇所・地点ポイント(緯度・経度)・調査方法	【対象流域法】 水収支、土壌環境、溪流環境、流域自然環境、水質、気象 【斜面ライシメーター法】 直接流出量、土砂流出量、水質、林床植生、気象など	H19: 体制整備、施設設計、事前調査 H20: 施設整備、森林整備 H21~モニタリング、森林整備	
	(1) 森林のモニタリング調査 人工林の整備状況調査 県内の民有林のスギ、ヒノキ人工林(30,000ha)について、5年ごとに整備状況を調査する。	年度・実施箇所・面積・ランク・GISデータ	森林の整備状況をA~Dの4ランクに分類	(時期未定)	人工林現況調査 ・調査時期: 平成8~14年度 ・調査内容: 今回と同じ
(2) 河川のモニタリング調査	(2) 河川のモニタリング調査 河川の流域における動植物等調査 相模川、酒匂川水系において、動物、鳥類、水生植物等を調査する。	年度・実施箇所・地点ポイント(緯度・経度)・調査種別・河川種別・河川名	水生生物、陸域動植物等、生物生息環境	H19: 調査計画策定、過去調査DB化 H20: 現地調査 H21~現地調査、とりまとめ解析	県その他機関の過去の調査をDB化する予定。
	(2) 河川のモニタリング調査 河川水質の多様な指標による評価 県民参加のもとで利用目的等に応じた多様な指標を選定し調査する。	年度・実施日・実施箇所・地点ポイント(緯度・経度)・参加者数・河川種別・河川名	水質、水生生物、外来動植物、河川環境・連続性	H19: 計画策定、県民参加仕組みづくり H20~調査、まとめ、報告会	公共用水域の水質測定 ・測定地点148(河川87、湖沼19) ・測定項目64(BOD等) ・測定頻度: 毎月1日

2 各事業のモニタリング

	事業のねらい・目標	事業内容	データ項目(事業情報)	モニタリング調査項目	モニタリングのスケジュール	既存・過去の関連調査
森林の保全・再生	1 水源の森林づくり事業の推進 荒廃が進む水源の森林エリア内の私有林の適切な管理、整備を進め、水源かん養など森林の持つ公益的機能の高い「豊かで活力ある森林」を目指す。 【目標】5年間で6,215haを確保、9,592haを整備。	水源分収林、水源協定林、買取り、協力協約の4つの手法により、公的管理・支援を行い、巨木林、複層林、混交林など豊かで活力ある森林づくりを進める。	【確保事業】年度・確保手法・面積・実施箇所・GISデータ 【整備事業】事業名・年度・工種・面積・事業費・実施箇所・地点ポイント(緯度・経度) 【モニタリング】年度・実施箇所・地点ポイント(緯度・経度)	・光環境 ・植生状況 ・土砂移動量	H19から実施。	水源林モニタリング調査 ・調査時期: H14から調査施設設置 ・調査内容: 今回と同じ
	2 丹沢大山の保全・再生対策 水源保全上重要な丹沢大山について、シカの採食や土壌流出等による植生の衰退防止を図るため、新たな土壌流出防止対策を講じることで、森林の保全・再生を図る。 【目標】5年間で58.5haを整備。	新たな土壌流出防止対策の実施(丸太筋工、丸太柵工、植生保護柵等) ブナ林等の調査研究(土壌成分やオゾン等がブナ林に与える影響を調査。) 県民連携・協働事業(樹幹保護及び登山道整備等)	【土壌流出防止】年度・工種・面積・事業費・実施箇所・GISデータ 【ブナ林等調査】年度・実施箇所・地点ポイント(緯度・経度)・調査内容	【ブナ林再生】大気環境、衰退状況、植栽木生育状況 【植生回復対策】柵内外の植生変化 【土壌保全対策】土砂移動量と林床植生変化	(項目により毎年または5年ごとに調査)	丹沢大山総合調査 ・調査時期: H16~17
	3 溪畔林整備事業 水源上流の溪流沿いにおいて、土砂流出防止や水質浄化、生物多様性の保全など森林の有する公益的機能が高度に発揮される良好な溪畔林の形成を目指す。 【目標】5年間で20haを整備。	調査測量(沢の重点管理区域内) 択伐等の森林整備 (択伐等の森林整備、植生保護柵の設置、土砂流出防止のための丸太柵等の設置)	【調査測量】年度・実施箇所・地点ポイント(緯度・経度) 【森林整備】年度・実施箇所・GISデータ・面積・事業費・整備内容	・光環境 ・植生(高木の種類数と本数、低木の種類数と本数、草本の種類数と植生率) ・植栽した箇所では、植栽木の樹高	(5年ごとに調査)	丹沢大山総合調査 ・調査時期: H16~17
	4 間伐材の搬出促進 水源かん養など公益的機能の高い良好な森林づくりを進めるため、間伐材の搬出を促進し、有効利用を図ることにより、資源循環による森林整備を推進する。 【目標】5年間で50,000m <sup>3</sup> を搬出。	間伐材の搬出支援(間伐材の集材、搬出の経費を助成) 生産指導活動の推進(森林所有者に対する経営指導や生産指導)	年度・市町村別搬出量			

		事業のねらい・目標	事業内容	データ項目(事業情報)	モニタリング調査項目	モニタリングのスケジュール	既存・過去の関連調査
森林の保全・再生	5 地域水源林整備の支援	地域における水源保全を図るため、市町村が主体的に取り組む水源林の確保・整備や、地域水源林エリアの林齢36年生以上の私有林人工林の間伐を推進することにより、県内水源保全地域全域で水源かん養など公益的機能の高い森林づくりを目指す。 【目標】5年間で... 私有林を1,263ha確保・整備。 市町村有林等を942ha整備。 高齢級私有林1,080haを間伐。	私有林の確保・整備(市町村) 市町村有林等の整備(市町村) 高齢級(36年生以上)私有林人工林の間伐の促進(県)	【確保事業】年度・確保手法・面積・実施箇所・地点ポイント 【整備事業】事業名・年度・工種・面積・事業費・実施箇所・地点ポイント(緯度・経度) 【モニタリング】年度・実施箇所・地点ポイント(緯度・経度)	具体的なモニタリング手法は、関係者の指導に基づき検討。		
河川の保全・再生	6 河川・水路における自然浄化対策の推進	水源として利用している河川において、自然浄化や水循環の機能を高め、水源河川としてふさわしい水環境の保全・再生を図る。 【目標】市町村管理の河川・水路を5年間で...生態系配慮の河川等整備を7箇所。 直接浄化対策を30箇所。	生態系に配慮した河川・水路等の整備(市町村) 河川・水路等における直接浄化対策(市町村)	事業名・年度・実施箇所・地点ポイント(緯度・経度)・事業始期・終期・整備延長・事業費・河川種別・河川名	・水質 ・植物(植物相、植生) ・動物(魚類、底生生物)	(事業実施前2日、実施後毎年2日) (事業実施前1回、実施後1回以上) (事業実施前1回、実施後1回以上)	公共用水域の水質測定 ・測定地点148(河川187、湖沼19) ・測定項目64(BOD等) ・測定頻度:月1回
地下水の保全・再生	7 地下水保全対策の推進	地下水(伏流水、湧水を含む)を主要な水道水源として利用している地域において、それぞれの地域特性に応じて市町村が主体的に行う地下水かん養や水質保全等の取組を促進し、良質で安定的な地域水源の確保を図る。	地下水保全計画の策定 地下水かん養対策(休耕田の借上げ、樹林地等の買上げ等) 地下水汚染対策(地下水の浄化設備等の整備、維持管理) 地下水モニタリング	事業名・年度・実施箇所・地点ポイント(緯度・経度)・整備延長・面積・量・事業費	・水位 ・水質		地下水の水質測定 ・測定地点103(定点調査の場合) ・測定項目32 ・測定頻度:年1回
水源環境への負荷軽減	8 県内ダム集水域における公共下水道の整備促進	富栄養化の状態にあるダム湖への生活排水の流入を抑制するため、県内ダム集水域の公共下水道整備を促進し、ダム湖水質の改善を目指す。 【目標】5年間で下水道普及率を59%に引き上げる。	県内ダム集水域の下水道計画区域において、公共下水道の整備の取組を強化。	事業名・年度・実施箇所・地点ポイント(緯度・経度)・事業始期・終期・整備延長・面積・量・事業費			県営水道水質検査 ・検査地点:水源地域8 ・検査項目35(生物、全窒素、全リン等) ・測定頻度:月1回
	9 県内ダム集水域における合併処理浄化槽の整備促進	県内ダム集水域において、窒素・リンを除去する高度処理型合併処理浄化槽の導入を促進し、富栄養化の状態にあるダム湖水質の改善を目指す。 【目標】5年間で... 市町村設置型を200基整備 個人設置型を300基整備	県内ダム集水域において、高度処理型合併処理浄化槽の整備を促進するとともに、市町村設置型合併処理浄化槽の導入を促進する。	事業名・年度・実施箇所・地点ポイント(緯度・経度)・事業始期・終期・整備延長・面積・量・事業費			県営水道水質検査 ・検査地点:水源地域8 ・検査項目35(生物、全窒素、全リン等) ・測定頻度:月1回
県外の上流域対策	10 相模川水系流域環境共同調査の実施	相模川水系の県外上流域において、効果的な保全対策を実施するため、神奈川県と山梨県が共同して調査を行い、県外上流域(山梨県内)の森林の状況や、桂川・相模川全流域の水質汚濁負荷の発生及び流達状況等について、現状と事業着手後の状況を把握する。	私有林現況調査・機能評価 水質汚濁負荷量調査 生活排水対策管理状況調査	【私有林現況調査】年度・実施箇所・面積・ランク・GISデータ 【水質汚濁負荷量調査】(調査実施について検討中) 【生活排水対策管理状況調査】年度・実施箇所・地点ポイント(緯度・経度)・管理状況			
再生水源環境保全	12 県民参加による水源環境保全・再生のための新たな仕組みづくり	水源環境保全・再生施策について、計画、実施、評価、見直しの各段階に県民意見を反映するとともに、県民が主体的に事業に参加する新たな仕組みを創設し、県民の意志を基盤とした施策展開を目指す。	「水源環境保全・再生かながわ県民会議」の設置・運営 市民事業等の支援	事業名・年度・事業費・実施日・会場名・形式・参加者数			